

第20回 第3次東員町行財政検討委員会会議録

1. 開催場所	東員町総合文化センター 2階 第1講習室
2. 開催日時	平成26年 9月26日(金) 午後 2時00分 開会 午後 4時00分 閉会
3. 出席委員 (敬称略) 出席幹部	岩崎恭典 酒谷宣幸 阿久根チサエ 川杉美津江 馬場順子 三浦信一 種村拓夫 毛利次郎 藤田昌義 伊藤郁子 伊藤英也 中村宗和 町長 教育長、総務部長 生活福祉部長 建設部長 総務課長 財政課長 政策課長 総務課長補佐、同係長 (その他課長級職員が同席)
4. 内 容	<p>1. 委員長あいさつ</p> <p>○会議録に基づき、委員長による前回会議の振り返り。</p> <p>委員長： この会議で20回目となります。第1次・第2次の検討委員会は、補助金削減等、削ることが主眼でしたが、第3次では、各補助団体に個別に事業の内容やあり方について提言しました。少子高齢化で人口減少となる中、各団体には自立の方向性を持たせる必要があります、総合計画の具体化も必要ですが、役場各部局においても、歳出減等の見直しや行政経営を考えるべきです。また、前回の話でもありましたが、最終的には職員の改革意識にかえてくるので、人事管理はしっかり行うことが大切です。</p> <p>今後、日本では消滅する自治体が発生する可能性もあり、東員町は、今まで進めてきた人口増を背景とした政策を見直して、住民も含め町全体として変わっていくことが必要になります。今回は、前回までの意見を反映し、行財政改革に関する提言書を作成しましたので町長にお渡しします。今回で第3次委員会は最終でもありますので、後ほど委員の皆様にも一人ずつご意見を頂きたいと思っております。</p>

2. 町長あいさつ

町長： 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。先ほど委員長からも言っていただきましたが、委員の皆様からお一人ずつご意見をいただき、最後に私から町長として一言申し上げたいと思いますのでよろしく願いいたします。

3. 第19回第3次東員町行財政検討委員会の会議録について ○第19回の会議録についての内容確認（決定）

4. 東員町の行財政改革に関する提言書について

委員長： それでは、町長に提言書をお渡ししたいと思えます。よろしく願いいたします。

<提言書を委員長から町長に手交>

町長： ありがとうございます。役場一丸となって取り組んで参ります。

委員長： 町の財政は、まだ今は大丈夫ですので、将来の人口減に備え、今のうちに行革を進めていくことが大事です。お金の使い方を見直し、もし次の委員会があるのであれば引き継いでいく必要があるかと思えます。では、今お渡ししました提言書の内容を事務局より読み上げて頂きます。

事務局：（提言書読み上げ）

委員長： 委員の皆様より、提言の内容等について一言ずつ願います。

委員： 第1次から参加しているが、東員町のことについて考える機会を与えていただきありがたく思う。1

	<p>0年後を見据えた時、第1次、第2次と温度差を感じるが、小さな意見も大切にしていきたいと思います。今後は、住民が住んでいて良かったと思えるような町にしてほしい。</p> <p>委員： 第1次・第2次でも補助金の削減について議論してきたが、なかなか取り組みができていなかった。議会と役場の関係をしっかりして、議員からも様々な圧力がかかるかもしれないが、無駄なものは省いて税を有効活用してほしい。今後も高齢化を見据えて努力してほしい。</p> <p>委員： 東員町は素晴らしいところだと思う。住民も役場にやってもらえばかりではなく、自助が必要だと思う。町の役に立ちたいと考えている住民も多いので、そういった方を支援する窓口を設けるなど支援の方法を考えてほしい。今後も住んでよかったと思える町にしてほしい。</p> <p>委員： 東員町はわずか2万6千人弱の町であるのに、四日市市や桑名市に囲まれてよくやっていると思う。合併せず自立できているのは、行政や住民が努力している結果と思う。町としては、存続している理由を探して、今後どうするか問い直すべきだ。文化面では個性的な取り組みがなされているが、町の魅力を皆で発掘すべきだ。町と住民は協働、協調が必要で、今後は、町に頼るのではなく住民がもっと自立していく必要がある。町としては自立を促す政策を行い、住民は自立する方法を日常的に考えるべきだ。</p> <p>委員： 10年間お世話になった。10年前は何かやらないといけないかなという感覚だった。今でもまだまだ住民に危機感が無い。危機意識を共有するため、住民に様々なことを周知していく必要がある。ま</p>
--	--

た、住民の中には協働意識が高い人も多いので、住民が何をしたらよいかについて情報を提供するとともに、そのきっかけを与えるべきだ。

委員： 自治会長を以前していたが、その時は、町の財政もよく、ふるさとづくり事業補助金で町から自治会への援助も大きかった。やる気のある自治会長にはたいへんよかった。

行革の委員に就任してからは、役場も大変だなと感じた。補助金に関する提言では、いろいろなことを真剣に考え、勉強もした。20回にわたる会議を振り返ると、役場と補助団体にとって一つの契機になったのではないかと思う。

町にはハコモノが多いが、補助金を削っただけでは、それらの維持は難しい。そういったものも含めて改革を行う必要がある。東員町はいろいろな問題があるが、それを進める力のある強いリーダーが必要だと思う。役場職員は、物事の発想を変えて思い切ったことをする必要がある。

委員： これまでの委員会で経費削減等について真剣に考えてきた。町は、近頃はトーンが下がってきたように思う。このように提言をまとめたが、町としては困難な課題が多いと思う。おわりにのところに書いてある PDCA をしっかりやってほしい。

委員： 広報紙の内容は前例踏襲だと感じていたが、今年の4月頃からは、変わったような気がする。もう1回読みたいと思われるような内容にしてほしい。また、財政の問題については、もっと発信してほしい。役場も未だ前例踏襲が多いので、部長・課長等の役職者はいろいろ実行できるはずなので、改革を進めてほしい。委員になってから町のことがよく分かるようになった。都合の悪い意見も聞くようにしてほしい。町の仕事は大変かもしれないが、大変な時代

だからこそやりがいもあると思う。仕事を辞めたいという職員もいるかもしれないが、職員の方はもっと主体的に仕事を頑張ってもらいたい。また、早期に辞めるのではなく、東員町役場に勤めてこんな仕事ができる良かったと思えるような職員になってほしい。

委員： 今の水谷町長に変わってから、行革が進むのではないかと感じた。しかし、トップが変わっただけでは何も実行できない。職員がついていかないことには、物事は進んでいかないと思う。過去の財政状況が良かったこともあり、住民の甘えも大きい。

数値目標をもって、町長と職員が一丸となって改革を進めてほしい。

委員： 今日伊勢湾台風の日でもある。その当時、神田村の職員は家族を置いて住民のために一生懸命だった。提言にもあるが、職員の本来の仕事は何かについて、もっとよく考える必要がある。何をやるにしても職員こそが全てだ。不要なことは町がやる必要はない。やるべきことは軋轢が生じてでも実行してほしい。団体補助については、町以外にも国・県からの補助もあるため、町補助を減らしても完全に有効ではない。そういったことも住民に知らしめていくことが大切だ。議員については、全国的に見ても質が落ちていると思う。議員にも行革を協力してもらいたい。議会の言いなりになるのではなく、うまくやっていくべきだ。

委員長： では、続いて副委員長から意見ををお願いします。

副委員長： 第3次委員会から参加しましたが、町のことを客観的に見ることができたと思います。過去の委員会の努力を活用できていないと感じました。批判をするのではなく実のあるものにしていくよう

意見を述べてきたつもりです。役場は、町民の方々が多く入っている委員会の提言であるので真摯に受け取っていただきたい。

6 団体への提言書については、批判のみならず、各団体に気付かせるためのヒントも入れられています。守りの姿勢に入っている団体もあるが、提言は真摯に受け止めてほしい。提言は立派なものであっても実践をしていかないと意味がないので、実効性のあるものにしていただきたい。

提言書の内容をまず職員が納得する必要があるので提言内容をよく理解してほしい。そして、住民含めいろんな立場の方々に伝えていく必要があります。町職員は役場組織の中にいるので、変革のチャンスがあるのです。職員がまず変わり、広報で流すだけでなく行動で示してほしいと思います。そして改革の意識を日々心がけるべきです。役場に勤めていることを家族が誇りに思うようになってほしい。何歳になっても人は変われます。提言を実行していくために皆で努力をし、住民も巻き込んでいくべきです。私としても、今後も町に協力したい。改革について皆で頑張るべきだと思います。

町 長： 町長に就任した時は、役場も住民も考えが甘いと感じました。悪い言い方をすれば馴れ合っているということです。第2次の委員会で補助金についてやり方まで提言を頂いたのに、役場はなぜ動いていないのか。この段階までできているなら、本来であれば職員が一丸となって取り組んでいるはずだと思っていました。それができていなかったため、第3次でもう一度皆様をお願いして、今度こそは絶対に実行するという決意で始めさせていただきました。

自治会にも補助金の削減等をお願いしてきましたが、たいへん反発が強かったです。職員もバッシングを受けるなど非常に苦勞していました。平成2

4年度の状況ですが、人口2万6千人弱の東員町で自治会への補助金は7,900万円です。これが人口14万人の桑名市では8,000万円とほとんど変わらないのです。東員町は自治会の活動の3分の2を補助していたためです。

シルバー、商工会等の各団体にしても、無駄な経費は省いています。担当職員は強い反発を受け、なかなか納得してもらえませんでした。岩崎委員長が言われるように、町は10年後、20年後にはこれ以上補助金が出せないという時期が必ず訪れます。そこで、団体がその時に自分の力で生き残れるのかどうかだと思います。削減を含めたこの改革は、各団体に今のうちから自立できる力をつけてもらうためなのです。それが行政の仕事であり、そのための補助金の削減なのです。また、補助金の削減は、税の公平性からも当然に実施しなければならないものなのです。

最初はいろいろな批判がありますが、これが行政の仕事だと思います。町のため、住民のためであれば、職員には何を言われても自信を持って仕事をしてほしいと思います。議会の壁もありますが、職員には苦勞してもらっています。住民にとっては当たり前前のことがストップされてしまいました。私自身にも原因があると思いますので、職員には申し訳ないと思っています。発達支援室拠点整備や生ごみ堆肥化事業など、職員が走り回っていて、多忙な中、余分な仕事が増えています。

そんな中、以前に比べて職員の意識が変わってきていると思います。町の将来のためなら今後も嫌われてでも厳しいことを言っていきたいと思っています。

自然エネルギーの活用については、小水力発電を検討しましたが、本町は土地に高低差が無いためできませんでした。したがって、太陽光発電しかないと思います。

また、喜び農業事業については、民間では果樹栽

培等はリスクがあるため、まずは町が主体となり、5年ほど計画的に実施する予定です。付加価値のある喜び農業で計画どおりの販売実績があれば、民間へ委譲したいと考えています。これらは、改革の一例ですが、職員は今、一生懸命に頑張っています。職員が一丸となって提言を実現できるようにやっていきたいと思ひます。

委員長： 10年前は目に見える無駄が多く、改革に手が付けやすかったと思ひます。行革が進むにつれ、徐々に核心に触れてきたのではないかと思ひます。先ほども意見の中にありましたが、団体補助が一例だと思ひます。財政については、税制改革の関係で、見かけ上は良くなっています。しかしながら、地域の自主財源は増えていません。東員町の財政状況は10年前と比べて、良くなっていますが、今のところまだ大丈夫な程度だと思ひます。今後は、笹尾・城山で急激に高齢化が進むので、2025年には後期高齢者が増え大変なことになると予想されます。それが最終的には住民に返ってくることとなります。自治会については、県内では、使い切り前提だった補助金を翌年度に繰り越すところも出てきましたが、本格的に見直しを進めて行く必要があります。住民協働では、住民も町のために何かやりたいという意欲はあるはずで、す。そういった改革の実現のため、今回提言しました。我々の任期はこれで終わりますが、これからが行財政改革の正念場です。

教育長： 今回初めてこの会議に参加させていただきました。社会教育課におきましても、自主文化事業を止め、住民が主役となる行事を進めています。文化協会等の団体については、独創的な取組みをされており、大事な柱となっています。我々も団体の自立化のため、知恵を出しています。

学校教育については、各先生が教育レベル維持のために頑張っておられます。いなべ市の教育研究所の研修に参加する等、教育の質向上に向けて頑張っています。小さい町であるけれども、プライドをもってやっています。

委員長： 次世代の子をどうやって育てていくのかは、親の関心も高い問題です。三重県の学力テストの結果は良くなかったですが、東員町は良いですので、これまでの成果が出ているのだと思います。人口がこれから減っていくのは明らかですが、人口構成はうまく世代交代していくべきです。また教育をしっかり受け継いでいくべきです。町が小さいからこそ、こういったことができるわけです。

また、今後はますます住民とのつながりが必要です。自治会だけではない組織を真剣に考えていく必要があります。そのための組織作りが必要になります。今後は、自治組織のあり方を考えていくことが大切です。

副委員長： 安倍政権の中、良いものをたくさん売って行こうという風潮があります。私自身は会計士であり、お客様が成功されるのを間近で見してきました。しかしながら、成功され、十分な所得があるにも関わらず、もっと稼ぎたいという方が多いです。私からお客様へは、自分の中で、金銭的な満足水準を設定し達成したら、社会貢献をしたらどうかとアドバイスしています。ブータンのような国でもそうですが、満ち足りることを知ることが大切だと思います。町も、子どもたちに“ある物で満足する”ということを経験させる必要があります。ある物の中で、どう活用していくかということです。多くの物を得ている人が成功者ではないと思います。満足水準を決め、財産形成したら後は社会貢献をしていくというふうにしないと、ずっと

苦しみが続いていくと思います。

環境問題についても、子どもは素直で良く分かっています。子どもを教育で賢くして、家庭の中で親に移していくのも面白いのではないのでしょうか。財政が苦しいのはむしろチャンスです。町民が賢くなり、豊かになるように努力すべきです。

委員長： 今回提言を出しましたが、町にとっては大きな宿題です。これからの行政経営含め、内部で検討してください。これらの提言を PDCA で回すことが大切です。今後、委員の皆様につきましては、チェックという形で改めて依頼を受けることがあるかもしれません。地域貢献のため、是非受けてほしいと思います。では、これにて終了します。

午後 4 時 閉会